

3年目を迎えたアートプロジェクト 「大森山Arts&Zoo」

企画広報担当 主席主査 吉田 淳一



2015年から始まった大森山動物園と秋田公立美術大学(以下、美大)によるアートプロジェクト「大森山Arts&Zoo」が3年目を迎えました。

2017年はこれまでの壁画やオブジェに加え、園内の案内サインをアートで表現する試みが行われ、各エリアの代表的な動物たちの後ろ姿を重ねた作品「おしりでごんにちは!」が誕生しました。園内8カ所に設置された同作品は来園者からも好評で、動物を見るだけでなく園内を歩きながらアートを鑑賞するという新たな楽しみが生まれました。

また、高木美保名誉園長と美大の大谷有花准教授、小松園長によるトークイベント「動物園でアートを語る」が開催され、動物とアートの深いつながりについてトークが交わされたほか、美大附属高等学院の生徒が作成した動物絵本「ぼくらの1日」を高木名誉園長に朗読いただきました。

「大森山Arts&Zoo」は今回で一区切りとなりますが、今後は動物園内にとどまらず、大森山公園への作品設置やイベント開催なども行うことで美大との新たなアートプロジェクトとして、みなさんに楽しんでいただけるよう展開する予定です。



I'm from



bye-byeまたねStairs



いろいろの景色



トークイベント

冬の風物詩 「雪の動物園」

すっかり秋田の冬の風物詩となった「雪の動物園」は2006年から始まり、2017年は鳥インフルエンザの影響で中止となりましたが、2018年で12回目の開催となりました。

その歴史は1990年から2004年まで1日限定で開催した「冬の観察会」が始まりで、2005年には「冬の特別開園」として1月、2月に各3日間開催しました。

雪の動物園は冬ならではの動物たちの様子を見てもらうことを目的に開催しており、レッサーパンダやアムールトラなど寒い地域が生息地の動物たちは冬の方が生き

生きと活動しています。

また、トナカイやポニーの園内散歩やイヌワシ、ワシミズクとの記念撮影など冬でも動物たちとふれあえるのも雪の動物園の魅力です。

今回は新たに「カピバラの湯っこ」やレッサーパンダのエサやり体験などのイベントも加わり、よりお客さまに楽しんでもらえるようになりました。今後も雪の動物園が秋田の冬を代表するお楽しみイベントとなるよう、さまざまな取り組みで盛り上げていきます。



アムールトラ



レッサーパンダ



ワシミズク



トナカイの園内散歩



カピバラの湯っこ

